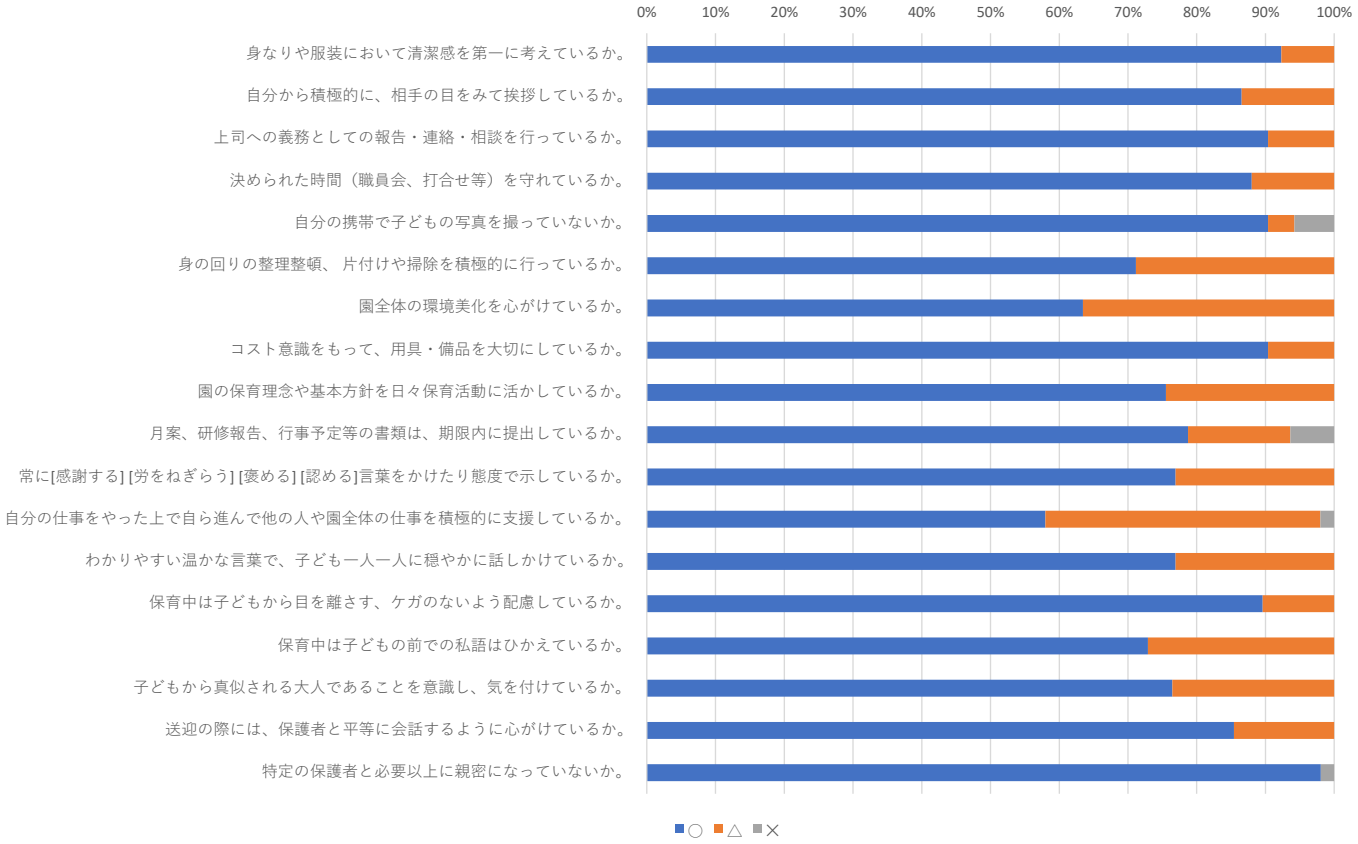
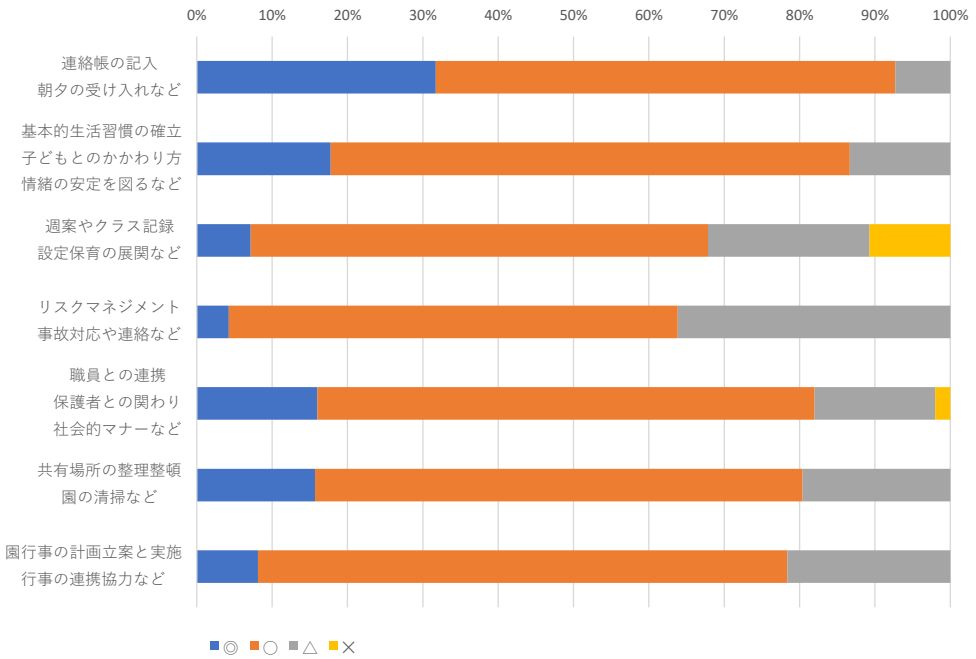
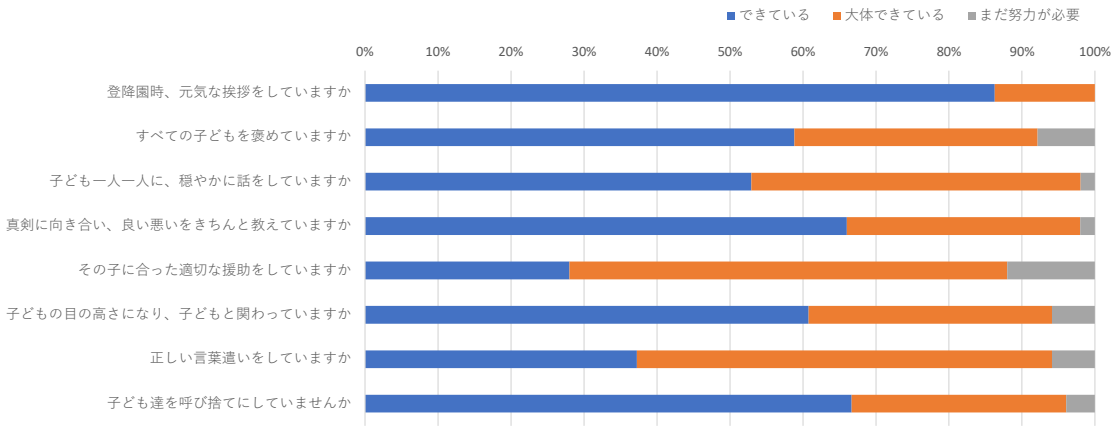
【保育士の自己評価】

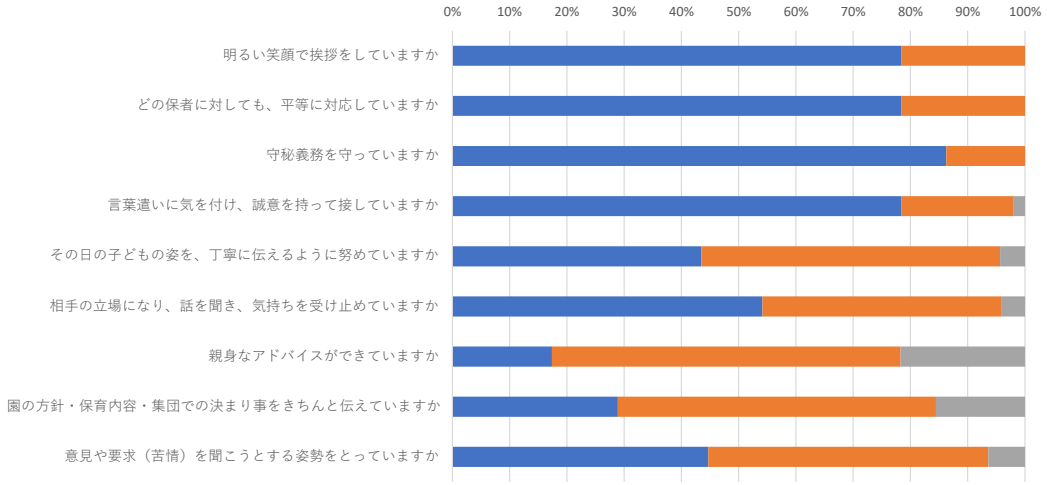

0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
身なりや服装において清潔感を第一に考えているか。
自分から積極的に、相手の目をみて挨拶しているか。
上司への義務としての報告・連絡・相談を行っているか。
決められた時間（職員会、打合せ等）を守れているか。
自分の携帯で子どもの写真を撮っていないか。
身の回りの整理整頓、 片付けや掃除を積極的に行っているか。
園全体の環境美化を心がけているか。
コスト意識をもって、用具・備品を大切にしているか。
園の保育理念や基本方針を日々保育活動に活かしているか。
月案、研修報告、行事予定等の書類は、期限内に提出しているか。
常に[感謝する] [労をねぎらう] [褒める] [認める]言葉をかけたり態度で示しているか。
自分の仕事をやった上で自ら進んで他の人や園全体の仕事を積極的に支援しているか。
わかりやすい温かな言葉で、子ども一人一人に穏やかに話しかけているか。
保育中は子どもから目を離さす、ケガのないよう配慮しているか。
保育中は子どもの前での私語はひかえているか。
子どもから真似される大人であることを意識し、気を付けているか。
送迎の際には、保護者と平等に会話するように心がけているか。
特定の保護者と必要以上に親密になっていないか。
○
△
×


0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
連絡帳の記入
朝夕の受け入れなど
基本的生活習慣の確立
子どもとのかかわり方
情緒の安定を図るなど
週案やクラス記録
設定保育の展開など
リスクマネジメント
事故対応や連絡など
職員との連携
保護者との関わり
社会的マナーなど
共有場所の整理整頓
園の清掃など
園行事の計画立案と実施
行事の連携協力など
◎
○
△
×

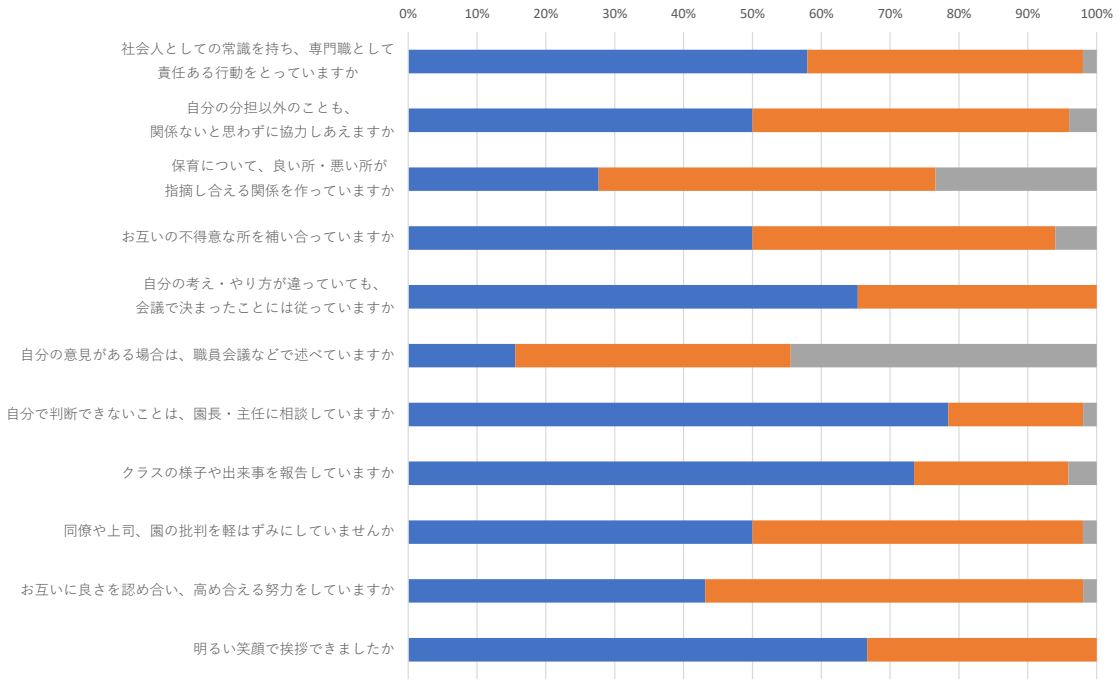
子どもに対して



保護者に対して



職員に対して



現受持ちクラスの年齢発達で意識をもって保育していることは何ですか。

・異年齢の子が利用しているため、動きも様々であれば、理解力も様々なため、一人ひとりに合った声掛けを行うようにしています。
・子どもが今どうしたいかどう思っているかを考えて保育している。
・お友だちを大切に思い、仲良く集団行動がとれるように、見守り声を掛けることに心掛けている。
・個人差があるので常にその子に合った援助が出来るよう心掛けている。なかなか難しい…。
・年齢に合った遊びの提供と遊びの展開。子どもが飽きないように園の中にある教材や身の回りにある物を工夫して提供するよう心掛けている。
・現時点では進級を控えているので、あまり口うるさく注意するのではなく、子どもが自立して動けるようにアドバイスするように心掛けている。
・自分の思い、気持ち、困っていることなどを自分の言葉で伝える。相手の話を聞く。自分のことは自分でする。その力を育てる。
・一人ひとりの「成長」に今必要な支援は何か考えるよう心掛けています。
・初めての園生活。行事が多いため子ども達一人ひとりの気持ちに寄り添いながら安心して過ごすことができるようにしている。
また幼稚園の楽しさを味わえるように笑顔で迎え入れる。
・常に笑顔を忘れず、その子の自主性を尊重して接しています。
・家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースに合わせた保育。
・子どもの気持ちを否定せず、まずは受けとめ共感する。子どもの呼びかけに対し、できるだけ「ちょっと待って」を言わないようにして、子どもの話を最後まで聞く。子どもの様子を観察する。
・気持ちをうまく伝えられず手が出てしまう子どもには「お口で言ってね」等の声掛けをしている。「ごめんね」がうまく言えない子どもには「先生と一緒に言おうか」と寄り添うように心掛けている。
・できないこと・興味のあることなど個人差が大きい年齢であると感じています。みんなが興味が持てるような楽しみを、手遊びやことば遊びなど少しずつ取り入れ楽しんでいます。
・りんご組には3歳から6歳の子どもたちがいるが、年少児はお昼寝・トイレ・手洗い・自由遊びを楽しめるように、年中児は友だちと楽しく遊べるように、年長児も基本的には同じですが、小さい子のお昼寝を思いやって静かにできたり、友だちと協力して仲良く遊べるように意識しています。お預かりの時間のため、安心してくつろげることを大切にしています。
・子どもがケガなく過ごせるように気を付ける。わらべうたや歌、ふれあい遊びを積極的に行っている。
・自分一人でできないこと（例えば食事やズボンの脱ぎ着など）を援助しながら少しずつ自分でできるように。自分の思いや考えを言葉で伝えられるように手助けしています。
・自分でやってみたいことを安全にできるように見守り手を貸していく。
・一人ひとりの個性を大事にして、その子に合った保育を心掛けている。
・年長組であってもまだまだ甘えたい気持ちもある年齢である。スキンシップを取ることを大切にすること、気持ちに寄り添いメリハリのある保育ができるように心掛けていた。（活動中頑張る時はしっかり向き合うこと！遊ぶときは思いっきり遊ぶこと！）
・友達とのトラブルが増える時期なので、噛みつきや押すなどの行為でケガのないよう注意する。そのような行為があった場合は、してはいけない理由をわかりやすく伝える。
・基本的な生活習慣が身につくようにする。友達との関わりをもって過ごせるようにする。今日の活動に意欲をもって取り組めるようにする。
・子ども達が、この場所・環境・人を好きになれるよう関わっている。「ここが安心して過ごせる場所だ」と思えるようになるように保育をしている。
・自立心が育まれるよう、不必要な手出しはしないように気を付けています。甘えが必要な時期の子どもには、その気持ちを受け入れるようにしています。
・4歳児は友だちとの関わりが重要なので、大人があまり介入しすぎないように、また子ども達が自分の言葉で思いを伝えられるように関わってきた。
・家庭の雰囲気と集団生活のバランスを考えて保育している。一人ひとりの発達段階やバックグラウンドを考慮し、臨機応変に対応している。
・就学前ということで入学したらできていたらいいことができるようになるように声を掛けたり援助したりしていた。友だちと遊ぶ際にトラブルになりやすい子どもには傍で見守って必要な時には間に入り声掛けをしていた。
・子どもの気持ちを尊重して寄り添いながら、気持ちを切り替えられるよう配慮する。子どもが自分でやりたいと思えるような声掛け、提示方法を見つけていく。言葉の発達の前段階としてのやりとり、言葉を使ってのコミュニケーションを意識する。
・一人ひとりの気持ちに寄り添い、時には気持ちを受けとめたり、叱ったり、その時の状況にあった声掛けを意識しています。
・必要以上に援助していないか考えながら、子ども達の力をきちんと伸ばしていけるよう意識しています。
・子ども達が自分で気付いたり動いたりできるよう、声掛けのタイミングを考えたり、見守ることを意識しています。
・3歳児は言葉が急激に増え、うまく言葉で伝えられない子には、言葉で伝えて行けるように援助している。また、友だちと関わって遊ぶことが増え、自分の気持ちを表現ができない時、トラブルになった時、両方の気持ちを聞き代弁している。
・体を動かすこと、戸外あそびなどをたくさん取り入れること。
・＜3歳児＞自分でできることは自分でする。できない時は保育者に「手伝ってください」と言えるようになる。自分の気持ちを友だちや先生に言葉で伝える。
・一人ひとりの子どもと穏やかに接すること。長い目で見て「わからせる」ではなく「わかる」を待つように心掛けようと努力している。
・子ども達の横のつながりの中での関係。遊びの広がり。
・まずは子どもが毎日安心して過ごせるよう、言葉かけやスキンシップを大切にしている。一人ひとりの発達段階に応じて目標をたて、関わっている。
・小学校に向けて色々な面で意識をもって行動したり、小学校生活を見据えて活動や自分の身の回りのことをしていけるよう、保育を進めたり話をした。
それぞれの子に見合った声掛けや援助。
・担任保育士に配慮の必要な子どもの様子・対応を聞きながら、保育に臨むようにしている。
・大きなけがや事故の無いよう、安全への配慮。自分でやろうとする気持ちを大切に見守っていく。
・初めての園生活の子どもも多いので、不安になる気持ちは受け止めつつも、一人でやってみようとする気持ちを持てるような声掛けをしたり、関わるようにしていた。できた時は褒めて、一緒に喜ぶようにしていた。
・給食室なので事故の無いように年齢に合った大きさやかたさに注意して提供しています。
・無理のないように一人ひとりの成長段階に合わせて基本的生活習慣ができるようになるように保育している。